

退職者の会総会での講演「在宅医療と介護保険」

住み慣れた場所で 自分らしく暮らすために

(病) 五十嵐ひとみさん

介護が必要になって
も、住み慣れた地域で
自分らしい暮らしを人
生の最後まで続けるに
は、どうしたらいいで
しょうか。一つには介
護保険制度があります。
介護保険に加入する
のは、40歳以上の方で
すが、介護認定を受け
た方しかサービスを利
用できません。介護認
定の申請は、区役所や
総合支所の窓口か、地
域包括支援センターで
申請します。利用できる
サービスは、訪問介
護（ヘルパー）、訪問
看護、車椅子や介護ベッ
ドのレンタル、ポータ
ブルトイレなどの購入、
などいろいろあります。
担当区域の地域包括支
援センターに相談しま
しょう。

処置（点滴、傷の処置
など）が必要な時は、
医療保険で、自宅に医
師、看護師が訪問して
くれる制度があります。
入院先外来通院先の病
院の相談室に相談しま
しょう。

65歳以上の4人に1
人が認知症（予備軍も）
になる時代です。健康
な今からできることは、
お金の管理、火の管理
（IHヒーターなど）、
死んだ後のこと（お墓）、
自宅の整理整頓、そし
て、医療をどこまで受
けるか、認知症になる
前に整理していきましょ
う。そして、平均寿命
より健康寿命です。口
コモ体操、ボランティ
アなどに参加し、隣の
他人と仲良くし、いつ
までも元気で暮らして
いきましょう。

退職者の会主催

講演「盗掘されたアイヌ民族の遺骨」

講師：榎森 進さん

退職者の会 小笠原喜美代さん

アイヌ・コタン・カムイなどの言葉は、これまで耳触りの良い、神々しい牧歌的響きを持って、はるか北のこととしてとらえていた。しかし、今回の講演の遺骨盗掘の内容は、東北大学のそれも解剖学教室という身近なところが関係し、教員・研究者、医師としての立場からも、学問の成り立ちとしても許しがたく、また何もしていないと思っている自分たちも加害者の側に立っているのではないかという思いを強く感じた。

講演では、中世からアイヌを蔑視し、差別し、時の権力者たちによる土地の収奪、強制移住の繰り返しとともに、獣や鮭漁の禁止による飢餓と天然痘や外界からのコレラ等の病気の感染による人口の変動など、自然の厳しさに加えてまさに生き残れることの困難さが伝わってきた。このような中、人類学研究のため、アイヌ・コタンの墓地から、わかるだけでも1676体+382箱もの人骨、副葬品の盗掘がされ、東北大学に今でも20体があるという。これまで聞いていた北海道の開拓の辺縁にこうした事実があったのだということが解った。

これまで医学・医療の分野では、ヒポクラテスの「誓い」やヘルシンキ宣言を耳にしている。また、日本学術会議において、科学者が社会の信頼を得て科学の健全な発達を促すため「行動規範」を決定公表していると聞く。国際的にも2008年国連の人権委員会が「国連宣言」の適用に向けて、日本政府に勧告、また2010年国連の人種差別撤廃委員会による勧告などがあるが、日本政府は不十分な対応となっているという。

人が人らしくあること、そのために過去に起こった事実を認め、現時点での研究者、医師、そして学問としての医学の倫理に照らし、反省すべきことを明確に説明し、次世代に向けて正しい倫理観を引き継いでゆくべきだろうと考えた。

編集委員の ちょっと そこまで

万寿山登山と台温泉

春の花がいっぱい

地内から登山口になっ
ていて、標高410m
で気軽に登れる里山と
して紹介されています。
登ってまもなく、シヨ
ウジョウバカマとイワ
ウチワの群生やミスミ
ソウなど他ではあまり
見られない風景です。
雨天のため、山頂手前
で引き返し、手打ち蕎
麦屋で昼食をとったあ
と台温泉の共同浴場で
汗を流しました。

万寿山は、ミスミソ
ウ（雪割草）やセリバ
オウレンなどで知られ
ている山です。
朝、雨がふりそうだった
「やまゆりの宿」の敷

たので、予定コースの
変更を考えながら花巻
温泉に向かいました。
その奥にある台温泉

